

2016年10月17日

## 札チャレラジオ通信 第40回

加納：三角山放送局をお聞きの皆さん、こんにちわ。毎週月曜日午後3時から30分間お届けしております、札チャレラジオ通信の時間です。今日は私、加納尚明がパーソナリティを務めさせていただきます。よろしくお願いします。

この札チャレラジオ通信はITで自立を目指す障がい者の人が、ITでマザル・ハタラク・拓き合う社会を作りたい、そんな思いで活動しております札幌チャレンジが、ここ三角山放送局からお届けしております。

障がいのある人がITを使って輝く姿を、いろんなゲストの方に来ていただいてお伝えしていきたいと、そんなことでやっておりますが、今日はですねゲストの方がおられません、8月8日の日にですね、私のパーソナリティの回がありましたが、その時の実は一人で話をさせていただいたんですが、私の時間配分がまったくなくなっておりませんですね、話したいことが半分ぐらいしか話せなかったんで。今日はその後編ということで、この後、3時30分まで私がお話させていただきたいと思いますので、お付き合いのほどよろしくお願いいたします。

はい、ところでファイターズファンの皆様、おめでとうございます！ってね。もう昨日の試合をね。スタジアム行かれた方、テレビで見ていた方、ネットでチェックしていた方、もうハラハラドキドキの、でも最終的には凄い試合で終わってファイターズが勝ちましてですね、日本シリーズ進出を決めたということで。本当に良かったですね。一回の表で4点取られた時はどうなるかと思いましたが、私もスタジアムに居ましたが、本当に凄い試合だったなぁと思います。

今年の一年間のファイターズの闘いぶりを一日に集約したような形で、前半ね、ホークスさんとは最大11.5ゲームも開いていたのに、それを一生懸命、チームのみんなが諦めないで、ファンもそうですけど、みんなが諦めないで応援して逆転して最後、感動的な残り二試合というところで優勝を決めた。昨日の試合なんかね、初回到4点取られましたけど誰も諦めてなかったですね。中田選手のホームランが2回の裏に飛び出しまして、あれで更に球場の中の雰囲気が一変しまして。実はその時点でもまだ、4対1で3点も負けてるんですが、誰も負ける気がしないような雰囲気になっていたから、本当にスポーツの世界というのは凄い力を生み出すんだなぁと思っております。

ということで前置きはこの位にしまして、今日私がこの後お伝えしたいのは、札幌チャレン

ジドには今私を含めて 11 名のスタッフがおりますが、一人一人様々な経緯を持って、この札幌チャレンジドでスタッフとして働いているようになっていまして、本当にありがたいなあと。とにかく NPO 法人って言ったってね、世の中の人ほとんどよくわからないわけですね。そこでましてや、仕事として働くってということがわからないので、そういう中に一つ飛び込んで来てくれて、みんな一生懸命働いてそれぞれの成果を出していってくれてる訳で。本当に働いている人がいるから組織が成り立つわけで、札幌チャレンジドの活動ってというのは、ベースになってまず職員として働いている人がいて、更にいろんな人のご協力があってということでもっているんで。

その一人一人のことについてですね、なかなか本人たちが自己紹介で話すと、そう話せるものでもないで私の方から少しどうゆう所が素晴らしいのかっていうようなことを、是非ラジオをお聞きの皆さんにも知って貰いたくて、お話をさせていただきます。

私以外に 10 名おりまして、8 月 8 日に日には 4 人についてお話をしました。飯村富士雄さん、佐藤美貴さん、大山珠美さん、林裕岐くん。4 人について話しましたので、今日は残りの 6 人について、札幌チャレンジドに入った順番に話をしていきたいと思います。

ということで五番バッターはですね、岡野裕幸さん。岡野さんは平成 24 年 4 月 1 日に入られましたから今、5 年目になります。もともと実は岡野さんは企業で本当にバリバリ働いていた方で、私と岡野さんとの出会いが、もう何年前だか、もう 6 年、7 年くらい前ですか。私が 2008 年から三年間、札幌市役所で企業の社会貢献活動をお手伝いする役割を持って働いていた時期があります。

そこで様々な企業さんとお会いして、その企業さんがどんな考えで社会貢献やっておられるのかとか、どんか課題があるのか、いろんな事例なんかも聞かしてもらっていたんですが。当時岡野さんは北海道 RICOH という、コピー機とかね、FAX とか、そういう IT 機器関連で、事務機器とかで、RICOH さんという会社がありますけども。その北海道の販売会社、北海道 RICOH という独立した会社があって、そこで社内の教育ですとか、あと CSR、企業の社会貢献活動とか、そんなことを担当されている部門の責任者でおられました。

私は市役所の立場で、岡野さんは RICOH 北海道の立場でいろいろお話をして勉強させていただいて。当時の私はとにかく、この北海道 RICOH という会社さんは北海道できっと一番 CSR の考え方とか取り組みが進んでいる会社だなあとと思うぐらい、非常にしっかりした考え方で、しっかりした活動をされていました。会社としての活動、社員一人一人の活動、本当に素晴らしい活動をされていて、いろんなことを勉強させていただきました。

私はその後、市役所の任期が終わって札幌チャレンジドに戻ったわけですが、ある時岡野さ

んから一通のメールをいただきまして、いろいろ思うところがあって、この度会社を退職しましたってということで、ご挨拶メールをいただきまして。驚いたんですけど、やったあ、神の導きだあと思ったことがあって。4年半前ですが、札幌チャレンジドでちょうど事務局長として、札幌チャレンジドの現場を采配していただく方、どなたかよい方いなかなあというふうにですね、考えていた時だったんですね。

その時に岡野さんからメールが来たもんだから、すぐに返信して、一回お会いしませんかみたいなメールを返してですね、札幌駅の近くのたしか喫茶店だっと思いましたが。そこでお会いをして、岡野さんの状況を聞かせていただき、また札幌チャレンジドの状況をお伝えして、是非札幌チャレンジドと一緒に働いていただきたいと。

札幌チャレンジドで、これから障害のある人の働ける社会を作っていきたいと話をして。岡野さんは企業を退職した方で、ものすごい力のある方ですし、普通の企業に再就職すれば給料もたくさん貰えるような状況であったんですが、いろいろご検討いただいて、分かりました、札幌チャレンジドと一緒に働きましょうということですね。働いていただけるようになりました。

今本当に、事務局長ということも踏まえて札幌チャレンジドの現場の要としてですね、様々な職員の相談ごとであったり、事務的なことの手配等々していただいて、私は割と事務所にいないでいろんなことで外へ出ていて、いろんな方と会うのが私の役割だと思ってそういうことをしているのですが、それができるのも岡野さんが本当にしっかりと事務所を守っていただいているからで、組織ってというのは本当にそういう方が居ないと回らないだなあということを痛切に感じているお方です。まだまだ話したいことはたくさんあるんですが、今日は全員のことを話さなきゃいけないと思っておりますので、こういう方がおられます、はい。

6番バッテリーはですね、高橋良雄さん。高橋良雄さんが札幌チャレンジドの職員になられたのも平成24年の4月1日ですから今はもう5年目に入っておられます。高橋良雄さんはいわゆる障害者ってということで、障害のある方なんですけども。高橋良雄さんと札幌チャレンジドとの出会いは、札幌チャレンジドが就労継続支援で、障害のある方の働く支援を平成18年の10月、もう10年前から本格的に制度の基づいてやり始めたんですが。その前から制度とは関係なく札幌チャレンジドの事務所に毎日来て、当時は画像加工、写真を切り抜いて加工したりとか、そういう仕事をメインにやっていただいて働いていて、平成18年10月からは札幌チャレンジドと雇用契約をして、札幌チャレンジドの職員ではないんですが、一緒に働くメンバーとして働いていただいています。

それが6年経って、たまたま平成24年の時期に札幌市さんから受託している障がい者ITサポートセンター業務を受託していて、その様々な受付業務がありまして、パソコンの講習の申し込みであるとか、パソコンボランティアさんの派遣の申し込みから調整など、そういう事務所にずっと電話やメールが来るものを着実に処理というか対応して業務を進めるといふ、そういう役割の人が退職されるってことになって、じゃまたそういう役割の人に誰かなってもらわなければならない。

その時に外からハローワークとかで求人するのではなくて、札チャレ内の障害のある方のメンバーを見た時に高橋良雄さんのお人柄がまず一番のポイントで良雄さんだったら来客された方も丁寧に対応できて笑顔で対応できるし、メール対応もできるし、良雄さんがいいんじゃないかっていうことで他のスタッフからの声も上がって、良雄さんにお声がけをして職員として、そういう業務についていただきながら札幌チャレンジドと一緒に作っていきたくてメンバーになりました。

そんなことで札幌チャレンジドの職員っていうのは今まででいうとやっぱりそういうようなつながりのある中で、それぞれの中の人の中からは職員になってきてるっていうのが良雄さんもそういう立場で、いま障がい者ITサポートセンターでは障害のある方のお家にボランティアさんが行って、そこでパソコンの相談に乗ったりいろいろ教えたりするわけですが、年間なんと、昨年度の実績でいくと433回の派遣がありました、延べですね。ということは1年365日しかありませんから、毎日1人以上の人がですね、札幌で障害者の方のお宅に行き、パソコンの指導をしてる。

そのすべての派遣のマッチング。申し込みが来る、メール、電話、ファックスいろんな形で申し込みが来て、パソコンボランティアさんが60人くらい登録されていて、その登録されている人にメールで投げて、希望者がいて、その調整をする、そういう本当に地道な業務を一人で一手に引き受けてやってくれていると、そんな方です、はい。

ではここですね、もう半分経ったんで残りあと4人を頑張って話さなきゃならないのですが、一曲聴いていただきたいと思います。ファイターズに非常に縁のある曲なんです、今年で引退を表明されました武田勝さんの登場曲ですね。樋口了一さんの「6分の1の夢旅人 2002」お聞きください。

加納：三角山放送局から札チャレラジオ通信をお届けしております。残り11分ほどなので、どんどんお話を進めていきたいと思います。今日は札幌チャレンジドで働く職員のことを一人一人ですね私の口から紹介をさせていただいております。

では7番バッテリーは柴田奈緒子さん。彼女は平成25年4月1日の入社ですから、3年経って4年目ですが、彼女はですね、札幌チャレンジドはそれまではほとんどの人がいろんな人脈で、人の紹介とか、その中で直接札幌チャレンジドからお声がけして職員になっていただいているわけですが、柴田さんはハローワークにですね、札幌チャレンジドから求人を出して、札幌チャレンジドの中で職員を見たところ年齢層が少し上の方に固まっていて、やっぱりNPOともいえどもですね持続可能な組織を作っていなきゃならないと。

そういう時に若い職員の人にも入って貰って、未来の札幌チャレンジドを担っていただく人をこれからは入れていかなきゃいけないねということで。そういう人につながりがあればやっぱりお声がけしていったのかも知れないんですが、なかなかそういったつながりっていうのが無かったので、ここは思い切ってハローワークに求人を出して色々な人に札幌チャレンジドのことを知ってもらって面接する中で選んでいこうっていうことで募集をかけたら柴田さんがエントリーをしてくださってですね、こういう素晴らしい人が僕たちの全然知らないところにいるんだって。

こういう人が札幌チャレンジドで働きたいって言っていただけるってありがたいなあということで採用させていただいて、もう3年半になりますが、柴田さんは今は就職支援の部門にいてですね、本当に毎日明るく元気に非常にアグレッシブな人で趣味はダンスってことでクリスマスパーティーの時にダンスを披露してくれたりしたこともあって、非常に活発な方ですね、若いんですけど結構職歴がしっかりとあって、地元は札幌以外のところなんですが、そこでお勤めになって非常に固い業種の会社にしっかりと勤めておられて。思うところがあって、札幌にその時出てこられていたんですが、やっぱりその経験って大きいなと思います。

そういう経験がですね、今の特に就職支援ですから、企業さんに障害のある方に働くためのいろんなサポートをしていく中で、やっぱり障害のある人に伝えないといけないこともたくさんあるし、企業の方にも企業の論理を分かった上で伝えなきゃいけないこともあるので、そういう意味では若いんですが今までのキャリア、経験を活かしてですね、まったく職種としては福祉っていうのは始めて彼女が飛び込んできた世界ではあるんですけども、人柄含めて非常に力を発揮してもらっております。

では時間の関係もありますので次は8番バッテリーということで、赤坂かおりさんです。赤坂さんは平成27年3月1日に札幌チャレンジドに入ってくださいました。赤坂さんも同じ若い人をさらに増やしたいということで、やはり就職支援の部門で事業拡大に伴って人をさらに増やしたいということで赤坂さんも同じようにハローワークの求人の中からエントリーをしてくださいました。

年齢的には本当にまだ若くて大学を出てから少し働いた経験がありますが、そんなにまだまだ社会人経験がたくさんありますって感じではなかったんですけども、就職支援をする部門に必要な人を受け止める力とか、優しく寄り添う力のようなものをですね、お持ちの方で、これは人柄なんでしょうけども、そういうところに非常に魅力を感じて、やっぱり頑張って働きたいっていう意欲も非常に感じましたし、正直 NPO ってというのがどういう所かというの、そんなに理解もされていなかったと思うんですけども、札幌チャレンジドがやってきていることなんかは勉強していて、こういう所で働きたいってことだったので、入っていただきました。

非常に感受性の豊かな方で、他の職員みんなそうなんですけども。いつだっかなあ、3ヶ月か4ヶ月くらい前に就職が決まった方がおられまして、その方の送別会的なちょっとしたお菓子をつまむような会があって、そこでうちのスタッフであったり、一緒に就職に向けて勉強している人たちと、その就職決まった人のことをおめでと、プラスこの人はこんな素晴らしいことがありますだとか、その人との思い出を語ったりするような会話があったんですけど、赤坂さんそれを聞いていて、ずっと泣いていて自分が話す番の時には、もうほとんどグダグダの状態だったんですね（笑）

その就職された方の担当していた、サポートしていたってということもあって非常に思い入れがあったんですけども、やっぱりそういう人のために涙できるなんて、こんな素敵なことないじゃないですか。特にその嬉しいことを一緒に喜び合う涙ですから、いい涙ですよ。悲しい涙はあんまり流したくないですけども。そんな感じで感性豊かな方が赤坂かおりさんです。

次は9番、千葉正和さん。千葉さんは平成27年4月1日入社ですから、一年半ですが、千葉さんは社会人経験は、かなりいろんな所で働いておられる経験のある方の男性なんですけども、一年半くらい前にね、札幌チャレンジドではいろんな部門がありますが、障がいのある方が働く支援をするっていう、企業さんからパソコン、インターネットを使ってやる仕事を受注しているんですが。

その業務がどんどん広がってきて、サポートする職員の手が足りなくなっているとか、しっかりとメンバーと一緒に仕事をやりながらサポートする人が必要ということで、そういう実務経験ですね。ITのこととか企業さんのこととか、分かりつつ、だからなかなか新卒って感じではなくて、本当に即戦力として、誰かいい人いないかなあと思ってた時に、千葉さんとは私は個人的に NPO つながりで。彼は他の NPO もやっていたりしたので知っていたんですが、風の噂で千葉さんがその今いる NPO を退職することになったと聞

きました。

岡野さんの話と似ているんですけども。そういう話を聞いたのでこちら側からお声がけをして札チャレのことをお話して、どうでしょうね、ここで一緒に働きませんかということでお声がけをして、今働いてもらっています。年齢層とか男女ってということも含めてバランス的にも非常にいい所にはまっていたいただいているのかなあと。

あと今まで他の所でも障害のある方の働く支援にも大変携わったことはあるので、それまでの経験とかNPOっていうことに、自分でもNPOをいくつか携わっておられるので非常に理解が深いんで、そういう意味でも、これからもそういうただ障害のある方に働く支援をする福祉って観点だけではなくて、NPOとして社会をどう見るのかとか、どういう社会を作っていきたいのかみたいな所で、これからはますます力を発揮していただければなあと思っております。

なかなか早口になって、ちょっとあれなんですけれども、あとお一人ラストバッターはですね、DHのような10番。小野洋一さん、小野さんは今年4月1日から職員になられた方です。小野さんも高橋さんと同じように実は就労継続支援のA型のメンバーとして、障害のある方の働くメンバーとして平成23年からですから、実は札チャレ歴としてはけっこう古くて、約5年間ですね。就労継続支援のメンバーとして働いておられました。

非常に優秀というか理解力もあるし、物事を正確に非常にカッチリできる人で、そういう能力をですね、我々の中で職員として現場の中にいて彼のことを我々はスーパーサブと呼んでいるんですが、いろんな仕事を札チャレで受けています。その仕事をたくさん理解して、どの仕事も非常にクオリティーの高い仕事ができるって立場で、そういう人がいることによって働いているメンバーも安心して働けるし、スタッフ側もやはり安心して業務運営ができるってことで、非常に貴重な存在なんです。

やっぱり色々な仕事をこつ、A型の仕事っていう限られた分野ではありますけども、そういうところをスーパーサブとして活躍していただいている、これからは新しい仕事いろいろ出てきた時に、やっぱり彼にもその仕事を理解してもらって、A型の障害のあるメンバーがいろんな仕事をできるチャンスを彼の力を借りながらですね、やっていきたいなあっていうふうに思っております。

というわけで残り1分を切っております。そんな札幌チャレンジドですが、実は今また職員を募集しております。小野さん、千葉さんと同じような感じで実際にその現場の仕事をですね障害のあるメンバーと一緒にやっていく人をハローワークにも求人を出して

おりますし、札幌チャレンジのフェイスブック等にもそういう情報を載せております。

やっぱり年齢層の関係があって 35 歳以下ということで年齢の区切りだけはつけておりますが、是非こんな札幌チャレンジのことにですね、関心があって場合によっては働いてみたいなあと思う方がおられましたら、札幌チャレンジまでお問合せをいただければと思います。電話番号は、769-0843 までお問合せをいただければと思います。そんなことで今日は駆け足になりましたが、また来週お会いしましょう。ありがとうございました、さようなら。